

## 人間社会研究科

## I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2022年度大学評価結果総評】(参考)

人間社会研究科では、時代の趨勢に対応したカリキュラム編成を常に目指していることがうかがわれる。教員採用にもカリキュラム改革が反映している。教育においても成果を発表する機会とそれをその後の研究指導に反映させる体制が整えられている。コロナ禍によって対面を旨とする教育体制に大きな揺さぶりが掛けられたが、積極的な対応で乗り切ろうとしている。

前期(2018-2021年度)中期目標は全体的に見て達成されたと言える。示された次期(2022-2025年度)中期目標とその達成に向けた達成指標の実施・実現に向けてこれからの積極的な取組みに期待したい。とりわけ、学生支援の中でも障害を持つ学生への支援は、HOSEI2030の柱の一つであるダイバーシティの人財育成の実践であり、積極的かつ具体的成果を出すことが特に期待される取組みであり、高く評価できる。

## 【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学院教授会を通して、大学評価委員会の結果について共有し意見を聴取した。カリキュラム編成については、学生のニーズと今日の社会状況に対応するために、更なる科目内容の見直しとオンラインも併用したハイフレックスによる教育方法を増やすことで、社会人学生も視野に入れた多様な学びを展開している。学生支援については、様々なレベルの障害をもつ学生への細やかな対応について、引き続き検討している。全体的評価として前期中期目標が達成されたという評価を受けており、今期も中期目標の達成と発展に向けて取り組んでいる。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## (1) 点検・評価項目における現状

## 1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

## 1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

現代社会の中に Well-being を実現することができる人材の育成という本研究科の教育目標を踏まえ、所定の期間在学し、所定の単位を修得したうえで、学位論文の審査により、以下の水準に達した院生に学位を授与する。

## &lt;福祉社会専攻&gt;

福祉社会の形成に関わる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を、高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士(福祉社会)」あるいは「修士(学術)」を授与する。

## 修士(福祉社会)

- 【DP1. 専門知識】 社会福祉分野に関する必要な専門知識を有する
- 【DP2. 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる
- 【DP3. 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
- 【DP4. 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる
- 【DP5. 研究力】 自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

## 修士(学術)

- 【DP6. 専門知識】 地域づくり分野に関する必要な専門知識を有する
- 【DP7. 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる
- 【DP8. 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- 【DP9. 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる  
 【DP10. 研究力】 自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

<臨床心理学専攻>

心のケアの専門家に必要とされる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士（臨床心理学）」を授与する。

- 【DP1. 専門知識】 臨床心理学に関する必要な専門知識を有する  
 【DP2. 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる  
 【DP3. 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる  
 【DP4. 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる  
 【DP5. 研究力】 自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる

<人間福祉専攻>

先端の研究課題を設定し、それに対して、創造的な答えを導き出し、自立して研究を行なうことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「博士（人間福祉）」、「博士（学術）」を授与する。

博士（人間福祉）

- 【DP1. 専門知識】 人間福祉分野の先端的研究に関する高度な専門知識を有する  
 【DP2. 読解力】 内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる  
 【DP3. 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる  
 【DP4. 実践能力】 研究者として必要とされる高度な実践能力を有する  
 【DP5. 研究力】 先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し論証できる

博士（学術）

- 【DP6. 専門知識】 臨床心理分野または地域づくり分野の先端的研究に関する高度な専門知識を有する  
 【DP7. 読解力】 内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる  
 【DP8. 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる  
 【DP9. 実践能力】 研究者として必要とされる高度な実践能力を有する  
 【DP10. 研究力】 先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し論証できる

1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、授与する学位において学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。

はい

1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

- ・『2023年度大学院要項』（カリキュラム）
- ・『2023年度人間社会研究科パンフレット』
- ・研究科ホームページ

<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html>

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。

<福祉社会専攻>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

**【教育課程の編成方針】**

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

## 修士（福祉社会）

- 【CP1】 DP1 専門知識、DP2 読解力を養成するため、コースワークとして、研究方法を修得する「専門共通科目」社会福祉の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく
- 【CP2】 DP2 読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく
- 【CP3】 DP3 表現力とりわけ専門英文表現力養成のため、「学術英語」をおく  
DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収斂するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

## 修士（学術）

- 【CP4】 DP6 専門知識、DP7 読解力を養成するため、コースワークとして研究方法を修得する「専門共通科目」、地域づくりの課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく
- 【CP5】 DP7 読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく
- 【CP6】 DP8 表現力とりわけ専門英文表現力養成のため、「学術英語」をおく  
DP8 表現力、DP9 実践能力、DP10 研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収斂するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

**【学習方法・順序等】**

- ・1年次はコースワークを重視し、まずは、研究のデザインと研究方法、データ収集とデータ分析の技法について、複数教員による多様な視点からの講義を受ける。
- ・リサーチワークとしての修士論文に収斂する個別指導は、1年次は院生の研究課題に即した指導教員が行い、秋学期に研究構想を固め、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、修士論文の構想を固める時期に専攻の全教員参加のもとでの発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

## &lt;臨床心理学専攻&gt;

**【教育課程の編成方針】**

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

## 修士（臨床心理学）

- 【CP1】 DP1 専門知識、DP2 読解力を養成するため、コースワークとして、近年の臨床心理学へのニーズの多様化・高度化に応じた臨床心理学の基幹を修得する「専門基幹科目」、それらをより深く展開する「専門展開科目」をおく
- 【CP2】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、臨床実践に関する「実習科目」と修士論文に収斂する「研究指導科目」をおく

**【学習方法・順序等】**

- ・1年次はコースワークを重視し、まずは、公認心理師および臨床心理士に必要な臨床実践技術について、複数教員による多様な視点からの講義と事例研究を行う。
- ・リサーチワークとしての修士論文に収斂する個別指導は、1年次は院生の研究課題に

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

即した指導教員が行い、秋学期に研究構想を固め、1年次秋学期後半からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。

- ・個別論文指導に加え、修士論文の構想を固める時期に専攻の全教員参加のもとでの発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

#### <人間福祉専攻>

##### 【教育課程の編成方針】

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

#### 博士（人間福祉）

【CP1】 DP1 専門知識、DP2 読解力、DP3 表現力を養成するためコースワークとして、福祉系の科目「特殊講義」をおく

【CP2】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける

#### 博士（学術）

【CP3】 DP6 専門知識、DP7 読解力、DP8 表現力を養成するためコースワークとして、地域系・臨床心理系の科目「特殊講義」をおく

【CP4】 DP8 表現力、DP9 実践能力、DP10 研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける

##### 【学習方法・順序等】

- ・個別指導を受けるだけでなく、コースワークとして、関連分野の講義を受講する。
- ・リサーチワークとしての博士論文に収斂する個別指導は、1年次は院生の研究課題に即した指導教員が、1年次秋学期後半からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、専攻の全教員参加のもとで、各年次に博士論文年次研究発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、授与する学位において学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
--	----

1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
------------------------------	----

##### 【根拠資料】

- ・『2023年度大学院要項』（カリキュラム）
- ・『2023年度人間社会研究科パンフレット』
- ・研究科ホームページ

<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html>

#### 1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
---	----

#### 1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4②シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
1.4③研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を书面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
1.4④研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『2023年度大学院要項』（年間スケジュール、履修について、指導教員について）</li> <li>・新入生オリエンテーション・ガイダンスにおける配布資料</li> <li>・シラバス</li> </ul>	

## 1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき、修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
1.5④学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『2023年度大学院要項』（修了要件、成績について、学位論文について）</li> <li>・研究科ホームページ</li> </ul> <a href="http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス</li> </ul>	

## 1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6③学習成果を可視化していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『2023年度大学院要項』（修了要件、成績について、研究成果について）</li> <li>・研究科ホームページ</li> </ul> <a href="http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html</a>	

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。  
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（新入生アンケート・修了生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会議事録</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## (2) 特色・課題

以下の項目の中で、 <u>研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいもの</u> を選択し、記入をしてください。	
【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。	
【教育課程・教育内容】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証</li> <li>・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供</li> <li>・専門分野の高度化に対応した教育内容の提供</li> <li>・大学院教育のグローバル化推進のための取り組み</li> </ul>	
特色	修士課程
学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供	
<p>福祉社会専攻では、研究の基礎となる研究方法についての学びを強める内容にするために、「福祉社会研究法Ⅰ」「福祉社会研究法Ⅱ」と科目を編成しなおした。また、社会人大学院生も視野におき、学生自身の実践やフィールドを教育や研究活動に活用できるように、社会福祉領域においては「ソーシャルワーク・スーパービジョン」の科目を新設し、コミュニティマネジメント系科目については対面とオンライン併用のハイフレックスによる講義を展開している。</p> <p>臨床心理専攻では、2022年10月に実施された公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による実地視察における、講義内容の整理に関する提案を踏まえ、「臨床心理学特論」「臨床心理基礎実習」を中心に、心理専門職養成のための教育内容をより充実させるべく検討を重ねている。</p>	
【教育方法】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）</li> <li>・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）</li> </ul>	
特色	修士課程
教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）	
<p>福祉社会専攻におけるコミュニティマネジメント系科目では、「地域経営学特論」「都市・住宅政策特論」「地域空間学特論」「地域環境特論」「アジア地域開発特論」について対面とオンライン併用のハイフレックスによる講義を展開することにより、多様な実践現場からの学びを提供できるとともに、学びの主体である学生自らのフィールドと研究活動の連携についても強化される可能性が強まる。</p> <p>臨床心理専攻では、心理臨床にまつわる実習の成果を向上させるために、「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ」において、学年を超えて事例検討を詳細に行う体制の整備を進めている。</p>	
【学習成果】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用</li> <li>・学位の水準を保つための取り組み</li> <li>・学習成果を把握する取り組み</li> <li>・学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</li> </ul>	
課題	修士課程
学習成果を把握する取り組み	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

福祉社会専攻における修士課程 1 年次には、7 月に各自の研究の構想を検討する「修士論文構想検討会」を行い、10 月には 7 月の検討会を踏まえた「修士論文構想発表会」を実施している。昨年度に行った学生からの意見徴収と教務委員会における課題の整理では、発表会を二度行っている状況に近く、7 月の検討会について、より自由で活発な意見交換が求められた。今年度は、構想検討会のために学生が準備する資料の検討や意見交換の方法について検討を行う。これにより、「修士論文構想発表会」での研究計画の完成度をあげることを目指していく。

その他、上記項目以外で研究科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

特色

課題

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①研究科ごとに学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。

<福祉社会専攻>

#### 【求める学生像】

現代福祉学部はもとより学内外の学部卒業生、専門職等の社会人、外国人留学生で、地域社会を基盤に Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

#### 【入学前に修得しているべき能力】

【AP1 知識】 4 年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりに関わる知識を修得している

【AP2 英文読解力】 専門領域に関わる英語力を有している

【AP3 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP4 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

#### 【入学者選抜の方針】

一般選抜入試

- 1 筆記試験により、AP1 知識、AP2 英文読解力について問う
- 2 口述試験（面接）において AP3 思考・判断、AP4 意欲・関心を問う

社会人選抜入試および外国人留学生選抜入試

- 1 筆記試験により AP1 知識について問う
- 2 口述試験（面接）において AP3 思考・判断、AP4 意欲・関心を問う

学内進学選抜入試

- 1 口述試験（面接）において AP3 思考・判断、AP4 意欲・関心を問う

<臨床心理学専攻>

#### 【求める学生像】

現代福祉学部はもとより学内外の学部卒業生や、専門職等の社会人で、人間の「生」(Life)をトータルに捉え Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## 【入学前に修得しているべき能力】

- 【AP1 知識】 4年制大学の心理学科卒業程度の臨床心理学領域を中心とした心理学に関する知識を有している
- 【AP2 英文読解力】 専門領域に関わる英語力を有している
- 【AP3 表現力】 問題状況に関する自身の見方を他者へ正確に伝達できる
- 【AP4 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
- 【AP5 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

## 【入学者選抜の方針】

## 一般選抜入試

- 筆記試験により AP1 知識、AP2 英文読解力を問う
- 口述試験（面接）において AP3 表現力、AP4 思考・判断、AP5 意欲・関心を問う

## 学内進学選抜入試

- 筆記試験により AP1 知識、AP2 英文読解力を問う
- 口述試験（面接）において AP3 表現力、AP4 思考・判断、AP5 意欲・関心を問う

## &lt;人間福祉専攻&gt;

## 【求める学生像】

修士課程修了の一般学生のほか、研究職や高度の専門職等の社会人で、地域社会を基盤に人間の「生」(Life)をトータルに捉え、Well-beingの実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

## 【入学前に修得しているべき能力】

- 【AP1 知識】 当研究科の福祉社会専攻または臨床心理学専攻の修了者あるいはそれと同等の専門知識を有している
- 【AP2 英文読解力】 研究テーマに関して専門的な英語文献を理解できる英語力を有している
- 【AP3 表現力】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
- 【AP4 思考・判断】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している
- 【AP5 意欲・関心】 先端の研究テーマを見出し、自らの研究方法を持って、研究に取り組める

## 【入学者選抜の方針】

- 既執筆論文と論文執筆計画の提出を求め、AP1 知識、AP3 思考・判断、AP5 研究力を問う
  - 筆記試験により、AP2 英文読解力を問う
- 口述試験（面接）を行い、AP3 思考・判断、AP4 意欲・関心、AP5 研究力を問う

2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。

はい

2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。

はい

## 【根拠資料】

- 『2023年度大学院要項』（カリキュラム）
- 『2023年度人間社会研究科パンフレット』
- 『法政大学大学院入学案内 2023』

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

・研究科ホームページ

<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html>

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

アドミッション・ポリシーに基づき、福祉社会専攻では①学内選抜入試、②一般選抜入試、③社会人自己推薦選抜入試、④外国人留学生選抜入試を行い、臨床心理学専攻では①学内選抜入試と②一般選抜入試、そして人間福祉専攻では①一般選抜入試といった、多様な入学者選抜を実施している。すべての入試において、研究科教務委員会で選抜制度と実施体制を検討した上で、教授会において審議・確認している。さらに、入学者選抜の方針に従い、複数の教員が筆記試験と口述試験を担当し、試験内容を十分に確認することによって、公正な入学者選抜となるようにしている。

また、作問採点担当委員と口述試験担当委員が入試直後に実施内容および採点結果について検討を行い、今後改善すべき事項が生じたときは、研究科教務委員会と教授会において改善策を検討し、次の入試に反映させることができる体制を整備している。例えば、コロナ禍においても、公正な入学者選抜を行えるように試験の実施方法を検討し、試験を実施している。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。 はい

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表 1

研究科・専攻における収容定員に対する在籍学生数比率	修士課程	0.50 以上 2.00 未満
	博士課程	0.33 以上 2.00 未満

### 3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①研究科の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

人間社会研究科の教員には、大学の理念・目的に基づき、各専攻の教育目標並びに研究科・専攻のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、教育に当たることが要請される。とりわけ高度専門職業人及び研究者養成のために、学生たちの研究課題の決定、研究へのアプローチと方法論など質の高い研究を指導できる教員を求めている。学生たちの学びのニーズの多様化も踏まえて、教員組織の編成を常に検討している。また、持続可能な教育のため、教員の年齢が特定の範囲に著しく偏らないように、教員組織の編成を計画している。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## 3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①研究科の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
<p>人間社会研究科には3つの専攻が設置されており、教員組織の編制方針は、それら専攻の学問領域を配慮したものとなっている。具体的には、福祉社会専攻にはソーシャルワーク、システムマネジメント、コミュニティデザインなどを専門とする専任教員を配置し、臨床心理学専攻には臨床心理士、公認心理師、精神科医の資格を有する専任教員を配置している。また修士課程の福祉社会専攻と臨床心理学専攻を総合した人間福祉専攻（博士後期課程）には、福祉社会・臨床心理学両専攻担当の教授クラスの教員を配置している。また、多様なバックグラウンドを持つ学生が入学してくることを踏まえ、きめ細やかな指導力を重視した教員の採用を行っている。</p> <p>修士論文や博士論文の作成に当たって専任教員が正・副の指導教員となり、複数教員による指導体制を整えている。このため、専門分野の質の高い研究力はもちろんのこと、隣接する学問領域への関心を持ち合わせた柔軟な思考力を具備した教員組織を編成できている。</p>	

## 3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集・採用に関しては、「専任教員招聘規則」</li> <li>・昇格に関しては、「専任教員の身分昇格」（学部教授会内規 3-1）、「教員の採用及び昇格の選考に関する規定」（学部教授会内規）</li> <li>・「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」（研究科内規）</li> </ul>	

## 3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①研究科（専攻）内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Well-being 研究会（学部との共催） 2022年6月25日（土）市ヶ谷キャンパスゲート棟4階G401教室・ハイフレックスによる実施参加人数37人 「春学期の授業状況に関する意見交換」</li> <li>・FD教員研修（学部との共催） 2022年10月5日（水）第一会議室・ハイフレックスによる人数 参加人数21人 教育開発・学習支援センター教育サポートユニット 「学習支援システムを活用する感染症に関する授業欠席等配慮願の受付について」 「剽窃チェックソフト-Turnitinの利用方法」</li> </ul>	
3.4③研究科（専攻）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。
<p>・Well-being 研究会（学部との共催）において、教員の研究テーマや研究成果概要を発表しあうことによって、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上に努めている。</p> <p>①2022年6月25日（土）市ヶ谷キャンパスゲート棟4階G401教室・ハイフレックスによる実施 参加人数37人  岩田千亜紀助教 「パターンリズムから当事者主権、権利を基盤としたソーシャルワーク支援を目指して一発達障害の母親への支援・障害のある性暴力被害者支援の研究を中心にー」  小林由佳准教授 「働く人と組織の well-being の実現をめざしてー職場環境、リーダーシップからのアプローチ」</p> <p>②2023年3月15日（水）301教室・ハイフレックスによる実施 参加人数27人  宮城孝教授 「日本の福祉社会における長期的リスクとレジリエンスの視座」</p> <p>・研究科と多摩共生社会研究所、学部同窓会との共催で、実践・研究交流会を行った。</p> <p>①2022年10月15日（土）301教室 参加人数23人  「コロナ禍において人々のウェルビーイングを守るための実践ーその現状と課題ー」  学部及び研究科のOB・OGによる実践報告  古谷栞氏（株式会社 地域計画連合）  成田沙月氏（八王子教育センター）  佐野真氏（八王子児童相談所）</p> <p>研究報告  宮城孝教授「八王子社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーにおける包括的相談支援の実践とそのコンサルテーション」</p>

#### 4 学生支援

##### (1) 特色・課題

以下の項目の中で、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・学生の自主的な学習を促進するための支援</li> <li>・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・外国人留学生の修学支援</li> <li>・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
外国人留学生の修学支援	
<p>希望する留学生に漏れなく日本人チューターを配置できるように、研究科教務委員会が日本人チューターおよび留学生の指導教員と連携して、十分なコミュニケーションに基づき、サポート体制を強化している。</p> <p>日本人チューターのマッチングにおいて、日本人院生の研究に時間配分等で支障がないよう配慮している。日本人チューターおよび留学生の指導教員も巻き込んで意思疎通を行い、マッチングを検討している。</p>	
その他、上記項目以外で研究科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

### 特色

障害を持つ学生の状況把握に重点を置いており、その状況に応じて、きめ細かな対応が可能となるように、大学院教務委員会において随時検討し、学生対応に反映させている。

学生の自主的な学習を促進するための支援として、臨床心理学専攻では、院生と修了生が共に学ぶ「市ヶ谷臨床心理の会」を開催しており、講義、演習及び実習とは別に、自主的な学びが可能な機会を設けている。

### 課題

本研究科では、ハイフレックスによる講義を増やしており、それに伴い、配信機材をより充実させていく必要があることが課題である。

## 5 教育研究等環境

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①研究科として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。

はい

#### 【根拠資料】

- ・『2023年度大学院要項』（研究倫理審査について）
- ・教授会議事録
- ・研究倫理ガイダンス

## III 2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。	
年度目標	時代の趨勢と、本研究科での教育に求められる課題について確認する。	
達成指標	論点ごとに教務委員会で検証を進め、それをもとに研究科としてまとめを行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	本研究科での教育に求められる課題について確認し、昨年度から取り組んでいる社会貢献・社会連携の充実について、本年度は現代福祉学部同窓会、多摩共生社会研究所との共催による実践・研究交流会を実施した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究科の教育に求められている諸課題の検証を進め、具体的な改善を進めたこと、また社会貢献・社会連携を充実させることができたことで、年度目標を達成し、質の向上がみられると評価できる。
改善のための提言	時代の趨勢の変化や社会の転換のもとでの、研究科に求められる課題を引き続き検討し、年度ごとに具体的な改善を進めていただきたい。	
評価基準	内部質保証	
中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCAサイクルで研究科運営の効率性を高める。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	質保証委員会と研究科執行部とのコミュニケーションを密にし、連携を図る。	
達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度末目標達成確認時点）の三段階で、内部質保証委員会と研究科執行部との情報交換を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	今年度も、年度当初、中間、年度末の三段階で、内部質保証委員会と研究科執行部との情報交換を行った。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	質保証委員会を三段階で開催し、研究科執行部との意見交換を置かなかったことにより、年度目標を達成したと評価できる。
	改善のための提言	－
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。	
年度目標	福祉社会専攻では、市ヶ谷開講科目について、教育課程・学習成果を中心に教育方法について検討する。臨床心理学専攻においては、公認心理師指定科目を含むカリキュラムの効果と課題について検討する。	
達成指標	福祉社会専攻では、市ヶ谷開講科目の教育方法について、専攻会議で検討する。臨床心理学専攻では、公認心理師指定科目を含むカリキュラムの効果と課題について、専攻会議で検討する。両専攻の議論のまとめを、教授会で確認する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	福祉社会専攻では、主に社会人学生が自らの実践現場を活かした学びを展開できるように、研究法の科目について内容を見直し、ソーシャルワーク・スーパービジョンの科目を新設した。 臨床心理専攻では、科目適合性の観点からカリキュラムの見直しを行い、必要と判断した科目については、科目名称及び内容の変更を行った。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	福祉社会専攻では、社会人ならではの学習内容となるように研究法の講義内容を改善し、新科目開設を具体化させ、年度目標を十分に達成したと評価できる。臨床心理学専攻ではカリキュラムの見直しにより科目名称及び内容の変更を行い、年度目標を十分に達成したと評価できる。
	改善のための提言	－
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。	
年度目標	コロナ対応のもとでの教育方法・オンライン授業のあり方について検討する。福祉社会専攻では夜間・土曜開講やオムニバス形式の授業における教育方法・オンライン授業のあり方について検討する。臨床心理学専	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<p>攻では、コロナ対応のもとでの心理実践実習（公認心理師指定科目）の適切な進め方について検討する。また、1年次からの実習準備教育・実習授業のあり方について検討する。</p> <p>研究倫理審査の内容と方法について検討する。</p>	
達成指標	<p>コロナ対応の教育方法について検討の場を持つ。福祉社会専攻では、夜間・土曜開講やオムニバス形式の授業について、専攻会議で検討する。臨床心理学専攻では、心理実践実習（公認心理師指定科目）および1年次からの実習準備教育・実習授業のあり方について、専攻会議で検討する。両専攻の議論のまとめを、教授会で確認する。</p> <p>研究倫理審査の内容を検討し、研究倫理審査マニュアルの整備を行う。</p>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<p>福祉社会専攻では社会人学生のニーズを把握し、科目内容の見直しを行うと同時に、ハイフレックスによる授業科目を試行的に増やすこととした。</p> <p>臨床心理専攻では、次年度から実施される国家資格試験の在学中実施に対応するため、心理実践実習時期をできる限り早めることとした。</p> <p>研究倫理審査の内容と方法を改善し、研究倫理審査マニュアルの整備を行った。</p>
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>福祉社会専攻では、ハイフレックスを活用した授業を試行し、教育方法の改善を十分達成したと評価できる。</p> <p>臨床心理専攻では、心理実践実習時期をできる限り早めることで次年度からの国家資格試験の実施時期変更に対応することとし、年度目標を十分に達成したと評価できる。</p> <p>研究倫理審査を改善し、学生の研究の円滑な進展に資することができたと評価できる。</p>
	改善のための提言	—
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。	
年度目標	<p>福祉社会専攻では、論文指導を早期に開始するために春学期に実施することとした修士論文構想検討会（M1）について、その効果と課題を検討する。</p> <p>臨床心理学専攻では、修士論文の研究成果と心理実践実習など臨床教育の成果との相乗効果と課題を検討する。</p> <p>人間福祉専攻では、博士論文年次研究発表会と1年間の研究成果である「研究成果報告書」を中心に、研究指導体制について検討する。</p>	
達成指標	<p>福祉社会専攻では、修士論文構想検討会（M1）について、その効果と課題を専攻会議で検討する。</p> <p>臨床心理学専攻では、修士論文の研究成果と心理実践実習など臨床教育の成果との相乗効果と課題について、専攻会議で検討する。</p> <p>人間福祉専攻では、博士論文年次研究発表会と「研究成果報告書」を含めた研究指導体制について、専攻会議で検討する。</p> <p>各専攻の議論のまとめを、教授会で確認する。</p>	
	教授会執行部による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	自己評価	A
	理由	福祉社会専攻では修士論文構想検討会と構想発表会について、その開催時期や会のもち方について、学生からの意見徴収と同時に教務委員会でも検討し課題を整理した。 臨床心理学専攻では、次年度から実施される国家資格試験の在学中実施に対応するため、修士論文口頭試問及び発表会の時期・方法について検討を行った。 人間福祉専攻では、博士課程の学びの進捗状況を確認する上でも博士論文年次研究発表会と「研究成果報告書」に基づく研究指導体制は重要であり継続して実施していくことが確認された。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	福祉社会専攻では課題となってきた学生の発表会について、学生の意見も聞きつつ、検討を進めることができ、年度目標を達成したと評価できる。 臨床心理学専攻では、次年度からの国家資格試験実施時期変更に対応するため、修士論文口頭試問及び発表会の時期・方法について検討を行ったことは評価でき、目標はほぼ達成している。 人間福祉専攻では、学生の研究成果を定期的に発表させるという研究指導の在り方について、検討を深め、年度目標を達成することができたことと評価できる。
	改善のための提言	福祉社会専攻での発表会について、今年度検討し、整理したことをもとに、次年度に具体化に向けた準備を進めていただきたい。 臨床心理学専攻での修士論文口頭試問及び発表会については次年度からの国家資格試験在学中実施に向けて今年度の検討をもとに、具体化を進めていただきたい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。
	年度目標	福祉社会専攻では、定員充足に向けて、特に社会人学生の獲得に向けた検討を行う。 臨床心理学専攻では、入学者選抜制度間における志願者の差についての検討を行う。
	達成指標	両専攻ともに、志願者増加に向けて入試説明会の実施形態や内容について検討する。 福祉社会専攻では、社会人学生のニーズを把握し専攻会議や研究科教務委員会で検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	両専攻ともに、入試説明会の実施形態や内容について検討し、説明会のもち方を工夫した。 福祉社会専攻では、社会人学生のニーズから、科目の見直しや授業形態の改善を次年度から具体化することとした。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
所見	両専攻とも入試説明会の実施形態を検討し、年度目標を達成したと評価できる。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		福祉社会専攻では社会人学生のニーズを把握するだけでなく、科目や授業形態の見直しを具体化し、年度目標を十分達成し、顕著な成果を上げたと評価できる。
	改善のための提言	入試説明会については、今年度の検討にもとづき、改善の具体化をまぎしていただきたい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。
	年度目標	教員の更なる資質向上に向けた活動について検討する。
	達成指標	従来の研究会に加え、専攻を超えた研究交流のための研究会の開催を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	現代福祉学部、多摩共生社会研究所および人間社会研究科同窓会とのコラボ企画として、実践・研究交流会を実施した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部及び学部同窓会など、連携対象を広げ、年度目標を上回る顕著な成果を上げたと評価できる。
	改善のための提言	－
	評価基準	学生支援
	中期目標	外国人留学生等の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。
	年度目標	障害をもつ学生への支援のあり方について検討する。 社会人院生やコロナなどへの対応をふまえ、学生の諸手続きについての見直しと検討を行う。
	達成指標	障害をもつ学生への支援の実態を把握するとともに、学生自身のニーズを把握して障害を抱えた学生への支援を教務委員会で検討する。 学生が提出する各種申請書や届け出類の押印や提出方法について具体的に検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	障がいをもつ学生自身からニーズを聞き、その具体的な支援対応について教務委員会で検討した。 学生が提出する各種申請書類について、押印の必要な書類を精査するとともに、自著をPDF化して提出する方法を検討した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	障害を持つ学生に関する年度目標を達成したと評価できる。 学生の提出書類についても簡素化を検討し、年度目標を達成したと評価できる。
	改善のための提言	障害を持つ学生への支援、学生が提出する書類の簡素化について、引き続き改善を検討していただきたい。
	評価基準	社会連携・社会貢献

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。	
年度目標	昨年に実施した大学院生へのアンケート結果もふまえ、社会貢献への活性化に向けた取り組みを検討する。	
達成指標	修了生を交えた研究交流会について検討する。 臨床心理学専攻における、修了生と在学生による臨床心理の会活動の動向を確認する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	現代福祉学部、多摩共生社会研究所および人間社会研究科同窓会との共催による実践・研究交流会では、パネリストとして教員だけではなく大学院修了生も複数参加し、現役生との交流が図られた。 臨床心理学専攻では、例年行っている臨床心理学専攻修了生及び在校生の臨床研究・実践交流会について検討した結果、コロナ対応として、本年度は遠隔で実施することとした。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	大学院修了性が参加する交流会を開催し、年度目標を十分達成し、顕著な成果を上げたと評価できる。
	改善のための提言	－
【重点目標】 昨年度から取り組んでいる社会貢献・社会連携の充実と、教員組織における研究の活性化のため、具体的な研究交流の取り組みを行う。 【目標を達成するための施策等】 昨年度から実施しているアンケート結果もふまえて、専攻を超えた研究交流の場を修了生を交えながら実施する。		
【年度目標達成状況総括】 現代福祉学部、多摩共生社会研究所および人間社会研究科同窓会とのコラボ企画として、実践・研究交流会「コロナ禍において人々のウェルビーイングを守るための実践-その現状と課題-」を2022年10月に実施し、社会貢献・社会連携の充実が図られた。またパネリストとして教員に加えて、大学院修了生も複数名登壇し、現場での活躍を報告するとともに現役生や教員との学びが深められ、教員組織における研究の活性化にも繋がった。		

## IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。
年度目標	時代の趨勢と、本研究科での教育に求められる課題について確認する。
達成指標	論点ごとに教務委員会で検証を進め、それをもとに研究科全体としてまとめを行う。
評価基準	内部質保証
中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCA サイクルで研究科運営の効率性を高める。
年度目標	引き続き質保証委員会と研究科執行部とのコミュニケーションを密にし、連携を図る。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度末目標達成確認時点）の三段階で、内部質保証委員会と研究科執行部との情報交換を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。
年度目標	福祉社会専攻については、学生のニーズと高度専門職養成を目的とした教育内容の見直しについて、検討していく。 臨床心理学専攻については、2022年10月に実施された公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による実地視察における、講義内容の整理に関する提案を踏まえて、教育内容の課題について、専攻会議で検討を重ねる。
達成指標	福祉社会専攻については、科目編成を行った「福祉社会研究法Ⅰ・Ⅱ」と、新設科目である「ソーシャルワーク・スーパービジョン」について、担当教員や受講生の意見聴取を行い、教務委員会でも効果と課題について整理する。 臨床心理学専攻では、心理専門職養成のための教育内容をより充実させるために、「臨床心理学特論」の科目設定や「臨床心理基礎実習」の内容について専攻会議で検討を重ねる。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。
年度目標	福祉社会専攻では、コミュニティマネジメント系科目についてハイフレックスによる講義を展開することにより、学生自らのフィールドと研究活動の連携について強化していく。 臨床心理学専攻では、心理臨床にまつわる実習の成果をより向上させるために、事例検討の方法を検討する。
達成指標	福祉社会専攻における「地域経営学特論」「都市・住宅政策特論」「地域空間学特論」「地域環境特論」「アジア地域開発特論」に関するハイフレックスによる講義の効果と課題について、専攻会議と教務委員会において整理する。 臨床心理学専攻では、「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習Ⅰ・ⅠⅠ」における事例検討の課題（例、院生の学年を越えて、合同で事例検討を行うこと等）について、専攻会議で検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。
年度目標	福祉社会専攻では、昨年度に実施した修士課程1年時の検討会および発表会についての課題整理を踏まえ、「修士論文構想検討会」における活発な意見交換を通して、「修士論文構想発表会」での研究計画の完成度をあげることがを目的とする。 臨床心理学専攻では、今年度、初めて年度内に国家資格試験が実施されることが、学習成果に及ぼす影響について検討する。
達成指標	福祉社会専攻では、「修士論文構想検討会」における資料と実施方法について専攻会議と教務委員会において検討を行い、「修士論文構想発表会」後には実践的調査等に取り組める指導を実施していく。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	臨床心理学専攻では、年度内に国家資格試験が実施されることを踏まえ、より学習成果を高めるための課題を専攻会議で整理する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。
年度目標	両専攻ともに、本研究科の強みと大学院での学びの魅力を伝え、志願者増加に向けた、進学相談会や学内選抜入試説明会等についての検討を行う。
達成指標	両専攻ともに、進学相談会については回数を増やして相談者のニーズを把握するとともに、年間を通じた相談会参加者の動向を整理する。学内選抜入試説明会については、特に福祉社会専攻における説明会参加へのアナウンスを強化する。また、学部1年生に対して、院生が研究科の特色を伝える機会を設け、学部生の大学院進学への関心を高めることを目指す。さらに学内選抜合格者には、大学院入学前の教育の機会を設けることによって、学内選抜を受けることのインセンティブを高めることを検討する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。
年度目標	教員の更なる資質向上に向けた活動について検討する。
達成指標	専攻や研究科を超えた研究交流の開催を検討する。
評価基準	学生支援
中期目標	外国人留学生等の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。
年度目標	様々な障がいをもつ学生に対しては、より細やかな対応を行っていく。また、外国人留学生のサポート体制を強化する。
達成指標	障がいをもつ学生について、学生支援センターに登録していない学生も含めて、その障害について把握し、合理的配慮に基づいた具体的な支援方法を教務委員会で検討する。また、チューター制度の効果をモニタリングし、今後の課題を検討する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。
年度目標	社会貢献と社会連携に向けて、在学生、修了生、教員がともに研究・交流できる機会を検討する。
達成指標	昨年度も好評であった、修了生や外部からの参加者も交えた交流会やフィールド活動について検討する。
<p>【重点目標】</p> <p>学生の受け入れについて、両専攻ともに、本研究科の強みをより広く伝え、志願者増加に向けて、進学相談会や学内選抜入試説明会等のあり方を検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>両専攻ともに、進学相談会については回数を増やして、より多くの参加者に本研究科の強みを伝える。学内選抜入試説明会については、説明会参加へのアナウンスを強化する。学部1年生に対して、現役院生が研究科の特色を伝える機会を設け、学部生の大学院進学への関心を高めることを目指す。学内選抜合格者には、大学院入学前の教育の機会を設けることによって、学内選抜を受けることのインセンティブを高めることを検討する。</p>	

## 【大学評価総評】

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

人間社会研究科は、昨年度の中期目標設定初年度においてコロナ禍を経験しながらも、各評価項目・基準に関する達成指標への取り組みでは9項目中5項目で「S」評価とされ、全体的な質的保証を損ねることなく実施に至ることができた点は大いに評価できる。本年度の達成指標も昨年度提起された改善への提言に基づきその実効性に大いに期待したい。特に、「教育課程・学習成果」では、「Well-beingを実現することができる人材の育成」実現において、学部教育での高い専門性・3領域を生かした総合的な学びとの整合性が良く担保されており大変評価できるとともに、本年度達成指標において具体的な取り組み事項が明示され大いに評価できる。

学部教育との接続でいえば、臨床心理学専攻については学部からの進学する学生が多いのが注目される。これは公認心理師や臨床心理士の資格試験が、学部のみならず大学院での授業を取らなければならないという事情もあるが、スムーズな接続教育がなされていることの表れであることとして、大いに評価できる。

「学生の受け入れ」に関する現状把握と課題認識では、社会人・外国人留学生の受け入れを念頭に各専攻において異なる募集方法を設け、加えて今年度は進学相談の機会およびその取り組み方法の充実が検討され大いに評価できる。福祉社会専攻の社会人・外国人留学生の入試において、英語の試験を課していない点についてインタビューをしたが、現状において英語力の問題で研究に支障をきたしている例はないとのこと。国際的な研究動向を把握することができるように「原書講読研究」や「学術英語」といった科目を配置し履修させるなどの工夫をしており、入試制度に起因する問題が発生していない点は評価できる。また、福祉社会専攻では、事前の研究室訪問等で入学前に面談をおこないコミュニケーション上の能力をあらかじめ把握しているため、入学してから語学で困るといった事例はほとんどないとのこと、外国人留学生の入試制度上の問題が起きていないことは大いに評価されるべきであろう。

さらに「学生支援」にも関連し様々な障がいをもつ学生への合理的配慮等も検討事項とする等の取り組みも評価できるとともに、修了生の卒業後の実態把握および同窓会との連携に関する社会貢献・研究教育への姿勢は人材育成に関する教育理念のさらなる実現にも鑑み特筆に値する。

人間社会研究科は総じて、本研究科の今期（2022-2025年度）中期目標の達成指標実現に向けた真摯な取り組みに今後とも大いに期待したい。

### 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。